

杉並の川、善福寺川の豊かさ発見

小学生が水鳥を調査！

1月17日、善福寺公園や善福寺川緑地、和田堀公園の3カ所で、水鳥一斉調査を実施しました。この調査は、平成20年に始まり今年が7回目。毎回、区内の小学生などを中心に実施しているもので、善福寺川で区民とともに、水鳥など多様な動植物が生息できる水辺環境を再生・創出していくことを目的にしています。

善福寺川は、杉並区のほぼ中央を北西から南東に流れる延長10.5kmの一級河川です。源を善福寺池に発し、中野区との区境で神田川に合流する杉並の代表的な河川です。

この杉並区民に親しまれている善福寺川を様々な動植物が棲む環境にしようと、区では「水鳥の棲む水辺」事業に取り組んでいます。この事業では、実際にどのような水鳥が、どれくらい生息しているかを継続的に把握するため、平成20年から毎年この時期に実施しています。水鳥など多様な動植物が生息・生育・繁殖できる潤いと安らぎのある水辺を再生・創出するためには、この環境を大切に思う区民の理解が欠かせません。そこで、地域の小学生とともに調査を続けています。

今年は、3カ所で小学生親子など180人が参加しました。その一つの善福寺公園の下池には、午前10時に54名が集合。双眼鏡を片手に、水鳥や野鳥などを探します。子どもたちには、日本野鳥の会のメンバー3名が解説員としてサポート。子どもたちは、解説員から鳥の名前や習性などを聞きながら、生息数などを記録しました。今年、小学1年生の娘さんと初めて参加したという父親は、「子どもにも、この環境を守っていくような心を持ってほしい」と笑顔で話していました。



およそ、2時間で調査は終了。今年は、例年同様、オナガガモやカルガモ、キンクロハジロの姿が目立ちました。近年は、15～18種類の水鳥を確認していますが、今年の調査の結果は、1月31日（土曜日）午後1時30分から、区立勤労福祉会館（桃井4-3-2）で開催される善福寺川「水鳥の棲む水辺」創出事業シンポジウムでパネル展示することになっています。

【報道機関 問い合わせ先】

都市整備部土木計画課：03-3312-2111